

大島町復興町民会議 元町地区復興まちづくり分科会報告（第1回～5回）

1. 開催概要

■毎週木曜日 18:00 開催

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月8日（木） 19時～21時30分	① 策定委員会委員紹介 ② 個別ヒアリング結果報告 ③ 今後の進め方	・元町地区復興まちづくり分科会 検討事項 ・大島町被災者個別ヒアリング（第1回）概要報告	分科会委員42人 復興計画策定委員会 中林委員長 饗庭委員 市古委員
第2回	平成26年 5月15日（木） 18時～21時20分	① 東京都の土砂災害対策について	・東京都の土砂災害対策について	分科会委員44人 都大島支庁 土木課長・土砂災害対策担当課長
第3回	平成26年 5月22日（木） 18時～20時45分	① 被災者住宅再建と元町地区まちづくりについて ② グループワーク ③ 各グループでの検討事項について ④ その他	・住宅再建に活用できる支援の紹介	分科会委員36人 復興計画策定委員会 中林委員長 市古委員
第4回	平成26年 5月29日（木） 18時～20時15分	① 第3回分科会のふりかえり ② グループワーク ③ 各グループでの検討事項について ④ その他	・第3回分科会 検討のまとめ ・住宅再建フロー	分科会委員27人
第5回	平成26年 6月19日（木） 18時～20時40分	① 第4回分科会のふりかえり ② 大金沢流路改修案について ③ ゾーン別復興まちづくりの方向性について ④ グループワーク ⑤ 各グループでの検討事項の発表 ⑥ その他	・第4回分科会 検討のまとめ ・元町地区復興まちづくりの方向性（案）	分科会委員41人 復興計画策定委員会 中林委員長 東京都河川部・大島支庁

2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	個別ヒアリング	・神達地区内の無被害の住民へのヒアリングは行わないか ・被害現場を見ながらの聞き取りも行ってほしい
	今後の進め方	・ある程度、前提となる条件を提示してもらわないと、話し合いが進まない ・安心して暮らすためには、大金沢の流路改修などの検討も必要 ・長期避難世帯なども分科会に参加してほしい
	その他	り災証明の判断基準 ・査定する人によって判断が異なるようなので、判断基準を明確にしてほしい 生活再建支援への要望 ・二重ローン対策、被災者のペット対応も入れてほしい

第2回	大金沢流路	<ul style="list-style-type: none"> 被災者が安心できる改修を行ってほしい 流路の改修計画を早期に示してほしい 他の沢に分担して大金沢の水量の負荷を軽減してほしい
	橋の改修	<ul style="list-style-type: none"> 流木がつかまらないように改修すべき
	土砂災害対策全般	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨に向けた応急対策の根拠資料を提示してほしい 仮設導流堤は不安なので計画を見直してほしい 梅雨に向けて応急対策を迅速に進めてほしい
	道路の冠水対策	<ul style="list-style-type: none"> 道路（都道・町道）の排水能力を改善して欲しい 電力施設が冠水しないようにして災害時の電力確保対策をとってほしい
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 町、都で一つのチームとして窓口を一本化して要望に対応してほしい
第3回	<p>○3つのグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見交換を実施</p> <p>①移転希望者の多いAゾーン、Bゾーンの土地利用をどのように考えますか？</p> <p>②堆積工から河口まで、流路にどのような不安がありますか？</p> <p>③住宅再建、生活再建について、どのような要望がありますか？</p> <p><代表的な意見></p> <p>① A・Bゾーン : 住むには不安が大きい。住めないので公有地化して欲しい。 住めるなら住みたい。住んでいる人の意見が大事。 公園や緑地、産業振興に利用できないか。 安全確保のため土砂を受け止める場所等に活用できないか。</p> <p>② Cゾーン : 大金沢流路の改修（拡幅・水深を深くする・線形を緩やかにするなど） 遊歩道・管理道路・緑地帯の設置など 現状では、住宅再建の方向性が出せない</p> <p>③ 住宅・生活再建：いずれの地域でも、住んでいい場所かどうかわからない、という意見 （行政側で決めてほしい） 被災した土地の買い取り 被災事業者への支援</p>	
第4回	<p>○家の上・神達・丸塚一帯（Aゾーン、Bゾーン）、大金沢流路周辺（Cゾーン）、元町2・3丁目一帯（Dゾーン）のグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見効果を実施（各設問ごとに、ゾーン別の特性や悩み等について何う）</p> <p>①生活再建について、どのようなご要望がありますか？</p> <p>②住宅再建を考える上で、何がネックとなっていますか？</p> <p>③ゾーンごとの土地利用についてどのようにお考えになりますか？</p> <p><班ごとのまとめ></p> <p>① A・Bゾーン：住む（事業継続）には、周辺環境の整備が必要 その上で、被害が甚大だった場所は公的施設として整備して欲しい</p> <p>② Cゾーン：行政の計画が示されない段階で、住宅再建は考えられない</p> <p>③ Dゾーン：このまま生活の拠点として、住み続ける地域として確認 その上で、流路改修や道路排水能力の向上で、安心して住める対策を希望</p>	
第5回	<p>○3つのグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見交換を実施</p> <p>①大金沢流路の整備のあり方について</p> <p>②Cゾーンのまちづくりの方向性について</p> <p><代表的な意見></p> <p>① 大金沢流路の改修：両側に管理用通路を確保することで今よりは安心できる 流木がつかまらないように橋の整備も必要 既存の生活道路がなくなると宅地への出入りができなくなる 流路両側や丸塚橋から上流にも散策路となる道路が必要ではないか 災害を学ぶことのできる施設としても利用したい 個別ヒアリングで流路沿川の方の意向把握が必要 地権者の気持ちを第一にすべき</p> <p>② Cゾーンのまちづくり：移転先の宅地を確保してほしい 被災した土地を売却したい 避難経路や避難タワーなど津波対策も必要 河川改修だけでなく面的なまちづくりを検討し、住宅再建と流路の安心整備を一体的に進める必要がある</p>	

元町地区復興まちづくりの方向性（案）

※第5回元町地区復興まちづくり分科会（平成26年6月19日開催）で提示

元町地区全体の方向性

「安全・安心なまちづくりと住宅再建の推進」

- ・大金沢の改善と連動したまちづくり
- ・生活道路網（避難経路）ネットワークの強化、橋梁の改善整備
- ・面的な雨水排水対策の強化
- ・宅地擁壁の安全性確保
- ・被災者の意向を尊重した再建支援

大島町作成

Cゾーン（丸塚橋～河口の区域）の方向性

- ・大金沢流路の改修計画を受けて住宅再建方法（現地再建、移転）を検討

Cゾーン（大金沢堆積工～丸塚橋の区域）の方向性

- ・緑地、農地、樹林地を育成
- ・現地再建を基本とする

Aゾーン（砂防施設予定地より上流の地域）の方向性

- ・積極的な土地利用を行わない



凡例
 橋梁整備箇所

Dゾーン（流路から離れた下流域）の方向性
 ・住宅や事業所が立地する土地利用
 ・現地再建を基本とする

Bゾーン（神達地区の導流堤の下部の地域）の方向性
 ・公園を中心としたオープンスペースとしての利用を検討

この図面は元町地区復興まちづくり分科会でのご意見等をふまえて作成した案であり、決定されたものではありません。